

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	美しが丘どろんこ保育園	種別：	認可保育園	
代表者氏名：	園長 佐藤 慶太	定員（利用人数）：	60（53）名	
所在地：	225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘1-23-6			
TEL：	045-511-7240	ホームページ：	https://www.doronko.jp/	
【施設・事業所の概要】				
開設年月日	2015年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人どろんこ会			
職員数	常勤職員：	14名	非常勤職員：	7名
専門職員	保育士	14名	栄養士	1名
	看護師	0名	調理員	2名
	用務員	1名	事務員	1名
施設・設備の概要	居室数	保育室3室、調理室、事務室、園庭	設備等	エレベーター、駐輪場

③理念・基本方針

【子育て理念】
 にんげん力。育てます。
 「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・野外体験を提案実践し“自分で考え、行動する思考”を育みます。

【子育て目標】

- 1.センス・オブ・ワンダー
 子どもが“自然の中での体験”を通して、ものの性質や身近な事象・生命の尊さ・食材や食の循環に気付くことができるように多くの実体験の機会を提供し、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。
- 2.人対人コミュニケーション
 園外では「すれ違ったすべての人」と挨拶を交わすことを園の約束としています。銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育など地域交流を実施し、一人でも多くの人と挨拶を交わし、一つでも多くの仕事を目にする機会を用意し、“感じたこと・考えたこと”を言葉で、ジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。

④施設・事業所の特徴的な取組

美しが丘どろんこ保育園は0～5歳児対象の認可保育園です。どろんこ会グループ共通の保育理念・保育目標の基、子どもたちの興味・関心が広がるように工夫をしながら保育に取り組んでいます。子どもたちは自然の中でのさまざまな体験や地域の人たちとの触れ合いなどを通じて、生命の尊さを感じたり、社会的ルールを身につけたりしています。天気の良い日は近隣の公園に散歩に行き、斜面のぼりなどでどろんこになるまで思いきり遊びます。どんぐりや葉っぱを拾った時は、次の活動に発展していけるように製作物に活用するなど、日々工夫しながら保育活動を行っています。また、系列園まで歩いて行き、系列園で飼育しているやぎのお世話をするなど、生き物ともたくさん触れ合える機会を設けています。地域交流に関しては、3～5歳児は月1回銭湯に行き、地域の人たちとの交流を図っています。また、コロナ禍の現在はオンラインを活用して高齢者施設と交流し、歌やゲームを行うなど工夫しています。食事に関しては、クリスマスにはチキン料理、節分には恵方巻きを提供するなど、季節が感じられる季節感のある食事を提供しています。そのほか、子どもたちが畑で育てたきゅうりやなすなどは調理して提供したり、園庭でとれた柿の皮をむき、干し柿やドライフルーツを作ったりするなど、子どもたちが食べることに興味や関心が持てるよう、工夫をしながら食育活動に取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年7月4日 (契約日) ~ 2023年3月15日 (評価結果確定日)
受審回数 (前回の受審時期)	1 回 (2017 年度)

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆事業計画の実現に向けて、毎月振り返り、見直しを行う体制が整っています

事業計画は、年度末の策定会議の際に、昨年度の事業計画を施設長と職員が振り返りながら作成しています。そして新年度が始まる前に職員全員で事業計画の読み合わせを行い、理解を深めるとともに職員間で共通認識を図っています。事業計画に掲げている子育て目標を実現するために、「各月の行動規範」を設定し、毎月の園会議で実施状況について振り返り評価し、園全体で実施状況を把握しています。施設長は毎月の実施状況を「運営状況報告書」に記載し、次年度に向けた事業計画や中期計画の見直しに生かしています。このように、実施状況を見直す体制が構築されており、事業計画の実現に向けて、施設長が中心となって園全体で取り組んでいます。

◆子どもの気持ちを尊重し、自発的に活動できる環境を整備しています

子どもたちの意思を尊重した保育を心がけています。1階は3～5歳児、2階は0～2歳児の保育室がありますが、けがの無いように安全面には十分配慮しながら、1階と2階を自由に行き来できる環境を整えています。子どもたちが自分の遊びたい場所を選んで、探究活動が行えるように工夫した環境となっています。異年齢とのかかわりを大切に、0～2歳児は異年齢保育を取り入れ、3～5歳児のクラスにも自由に行き来して活動することで、低年齢の子どもは憧れの気持ちを抱き、高年齢の子どもは思いやりの気持ちが芽生えています。給食も自分の好きな場所で食べられるように、保育室だけでなく、縁側で食べる「縁側給食」も取り入れています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保護者の方が園に相談しやすい環境や園の安全な環境設備に対しての配慮が足りていないという記載もありましたが、保育士が生き生きとしていて園全体が明るいというご意見も見られました。温かい雰囲気のもと、相談しやすい環境作りを園全体で考え、保護者の方や地域の方と関係構築したいと思っています。また、園の強みである自由に行き来できる環境において、「子どもたちがやりたい事を存分に行う」「やってみたい事を発見・選択し挑戦する」など子どもたちの探求心を大切に見守っていきたいです。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり